

JUNYA WATANABE COMME des GARÇONS

アヴァンギャルドだけど可愛い

モードの最高峰、パリコレで活躍する日本ブランドと言えば「コム デ ギャルソン」。前衛的な革新性に、ときにはベーシックを加味させた作品を創り出す渡辺淳弥は、川久保玲が率いる「コム デ ギャルソン」のデザイナー。海外ブランドに夢中の私たち世代に新しい扉を開くのは、世界が注目するメイド・イン・ジャパンの服に違いありません。

撮影/川口賢典(STOIQUE) スタイリスト/橋本早苗 ヘア/Hanjee(A.K.A) メークアップ/Keiko Morisaki(STIJL) 取材・構成/柳武麻実 デザイン/Fab 撮影協力/逗子マリナー

パリを驚かす発想力

中野香織

デザイナー本人があまり語らないゆえに、目の肥えた服好きが饒舌に高評価を与えるアカデミック系デザイナーがいる。四天王がマルタン・マルジェラ、アングーカバールの高橋盾、コム デ ギャルソンの川久保玲、そしてジュンヤワタナベ・コム デ ギャルソンの渡辺淳弥であるのか。

渡辺淳弥はコム デ ギャルソン入社後、ボタンナーを経てトリコ・コム デ ギャルソンを任せられ、その後ジュンヤワタナベ・コム デ ギャルソンのデザイナーとしてパリコレに参加する。社風としてショーが始まるまで互いの作品は知らないという。緊張を保ちながらも底流には絶対の信頼と互いへの敬意がある、なんだか理想的な関係に見える。

渡辺淳弥はメタルフレームのメガネをかけて頭を丸刈りにした、強い意志を感じさせる実直そうな風貌である。ショーも最前列のセレブやパーティーといったゴシップとは無縁。創作第一のマニアックな服職人である。実際、「コム デ ギャル

ソン」のショールームで床と壁と天井いっばいに展開された彼の作品の複雑なボタン（型紙）を見る機会があったのだが、前衛建築のような多層の服は、こんなおびただしい数のボタンから作られていたのか……とめまいがした。「彼の下で働くボタンナーはマゾのはず（笑）」というあるバイヤーの言葉も笑い飛ばせなかったほど。

愛用者として有名なのが、ビョーク。超個人的アーティスト向けの服かといえど、そうでもなく、シャネル風ジャケットやトレンチコートなど、私たちが普通に着られる服も多い。メンズにおいては、リーバイスやナイキ、モンクレールやラコステなどとのコラボも幅広く手がける。意外と売れ筋ビジネスにも強いようだ。

折しも、海外では「日本発ファッション」が熱い。ファンが自由に意味を読み込んで盛り上がる光景を見ると、デザイナーが寡黙であることがかえってブームを押し上げているように見える。黙々と世界の巨匠への道を着実に歩む。

中野香織
服飾史家、コラムニスト。東京大学卒業後、ケンブリッジ大学客員研究員を経て執筆活動に。著書に『スーツの神話』『着るものがない!』などが。



超絶的構造のデニム

2002年春夏コレクションでは、テーマに掲げたほど得意とするデニム。2005年春夏から「コム デ ギャルソン・ジュンヤワタナベ・デニム」というラインも誕生。パンツとスカートの定番デニムに、シーズンアイテムが加わります。なかでも、プリーツ状の布がドッキングしたスカートには、渡辺淳弥らしいモードと個性が光ります。デニムスカート ¥44,100 (コム デ ギャルソン・ジュンヤワタナベ・デニム/コム デ ギャルソン)

'08年春夏パリコレも好評

(右) 明るい色が目を惹く、楽しいコレクションと評判。澄んだきれいな色や、華やかなリバイプリントが登場。一枚の布を駆使した造形美のドレスは、アフリカがヒント。Aラインのドレスも、大人可愛い雰囲気着こなしやすそう。(下) 2002年にオープンした、「ディエチ コルソ コム・コム デ ギャルソン」で、フルラインが揃います。●東京都港区南青山5-3 ☎03-5774-7800 営業時間: 11時~20時 休: 12/30~1/2



1969年に川久保玲が立ち上げた「コム デ ギャルソン」は、73年に会社設立、75年に東京コレクションに初参加。81年にパリ、ブレタポルテ・コレクションでデビュー。国際的にも高い評価を受け、日本を代表するブランドとしての確固たる地位を築く。渡辺淳弥は、文化服装学院を卒業し、84年、「コム デ ギャルソン」に入社。川久保玲に認められ、87年に「トリコ・コム デ ギャルソン」のデザイナーとしてスタート。92年、「ジュンヤワタナベ・コム デ ギャルソン」として活躍中。

ン」として、東京初のショーを行い、'93年には、パリコレデビューを果たす。斬新な素材開発にも積極的で、独創的なフォルムでありながら、緻密でデリケートな作風が特徴。2001年には、「ジュンヤワタナベ・コム デ ギャルソン・マン」を立ち上げる。ベーシックを追求して、新しいものを誕生させるという、誠実な服作りの姿勢は、高く評価されている。現在は「コム デ ギャルソン・オム」も手がけ、3つのブランドのデザイナーとして活躍中。

進化するブランドSTORY